

多奈川ビオトープ



生きものの図鑑 2019



岬町・大阪府・南海電気鉄道(株)

製作：日本ビオトープ管理士会 近畿支部

多奈川ビオトープとは…

- ★「多奈川ビオトープ」は、岬町の「いきいきパークみさき」（多奈川地区多目的公園）の中にあります。
- ★かつて、この場所は山や谷が広がっており、たくさんの生きものが暮らしていたのですが、「関西国際空港」第二期事業の土砂採取場所となり、跡地は「多目的公園」として整備されました。
- ★その多目的公園の一角に、約 2.5ha の「多奈川ビオトープ」があり、かつてここに暮らしていた生きものたちを呼び戻そうと、彼らの生育・生息場所となる湿地や草地を創出・維持管理したり、もともとこの場所に生育していた樹木を植栽するなど、「自然再生」に取り組んでいるところです。
- ★ボランティアによる「自然再生活動」だけでなく、「自然観察会」などのイベントも計画しておりますので、皆様も一度お越しになられてはいかがでしょうか！！



ビオトープ池



自然再生活動



自然観察会



この図鑑ができるまで…

★2014年、子どもたちと一緒に年6回の調査を行い、その成果を活用して「生きもの地図」を作りました！
★その後、2018年12月まで、自然観察会開催時等に調査を行い、今回、「2019年版」にまとめました。



① 調査の方法を説明します！



② 早速「調査開始」。何か見つけたみたいです。



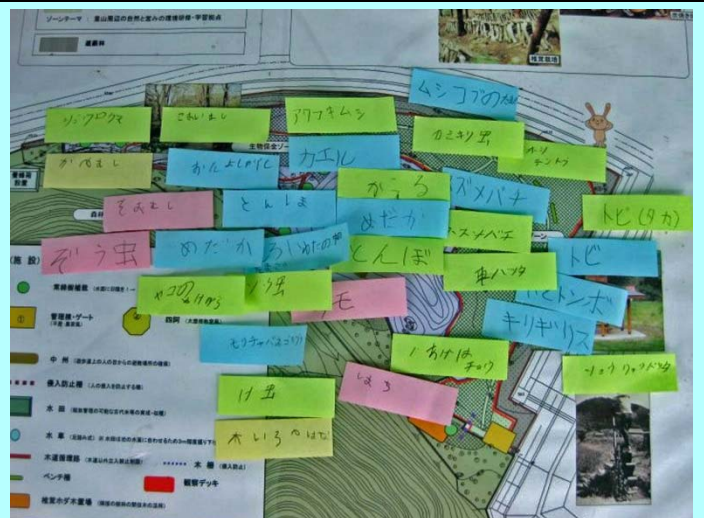
③ みんなで虫の特徴をじっくり観察！



④ 見つけた生きものを、「ふせん」に記入して…



⑤ 見つけた場所に貼り付けます。



⑥ 「生きもの地図」のできあがり！！



春（3～5月頃）の多奈川ビオトープ ①



↑ ノウサギ



↑ トビ



↑ ホオジロ



↑ カシラダカ



↑ コオイムシ (♂)



↑ アマガエル



↑ オトシブミ



↑ ナナホシテントウ



↑ クマバチ



↑ シオカラトンボ (♂)



↑ ホソミオツネトンボ



↑ クロイトトンボ



↑ ケラ



↑ クビキリギス



↑ ジョウカイボン

春（3～5月頃）の多奈川ビオトープ ②



↑ カラスノエンドウ



↑ カスマグサ



↑ スズメノエンドウ



↑ タチイヌノフグリ



↑ タネツケバナ



↑ ナズナ



↑ ハコベ



↑ ヒメオドリコソウ



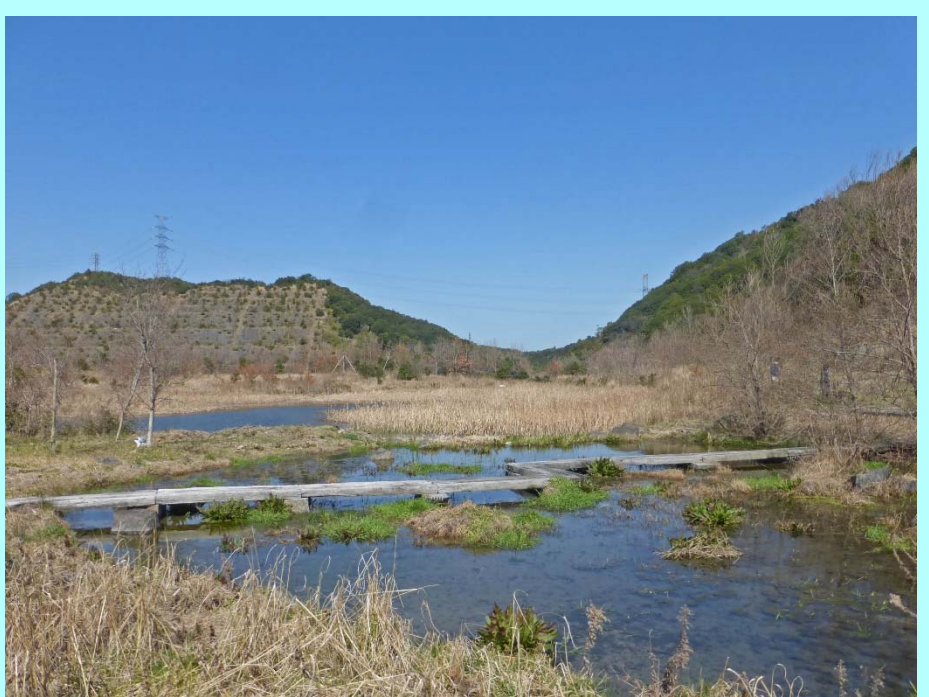
↑ ホトケノザ



↑ オランダミミナグサ



↑ セイヨウミツバチ (ナルトサワギク)



↑ 春の「多奈川ビオトープ」

夏 (6~8月頃) の多奈川ビオトープ ①



↑ ツバメ



↑ セッカ



↑ ニホントカゲ (幼体)



↑ ニホンカナヘビ



↑ ミンミンゼミ



↑ ツクツクボウシ



↑ カブトムシ (♂)



↑ ゴマダラカミキリ



↑ カナブン



↑ アオカナブン



↑ マメコガネ



↑ オオスズメバチ (♀)



↑ コガネグモ (♀)



↑ ナガコガネグモ (♀)



↑ ナナホシテントウ

夏 (6~8月頃) の多奈川ビオトープ ②



↑ ミズカマキリ



↑ トノサマガエル



↑ ハラピロトンボ (♂)



↑ ハラピロトンボ (♀)



↑ チョウトンボ



↑ ムスジイトンボ



↑ コオニユリ



↑ カタバミ



↑ オカトラノオ



↑ ガマ



↑ ヒメガマ



↑ 夏の「多奈川ビオトープ」

秋（9～11月頃）の多奈川ビオトープ ①



↑ ミサゴ



↑ モズ(♂)



↑ ジョウビタキ(♂)



↑ カルガモ



↑ ツクツクボウシ(♀)



↑ ナナホシテントウ



↑ セイヨウミツバチ



↑ ニホンミツバチ



↑ オオスズメバチ



↑ コアオハナムグリ



↑ ジョロウグモ(♀)



↑ ナガコガネグモ(卵のう)



↑ マイコアカネ(♂)



↑ オンバッタ



↑ ヒメジュウジナガカメムシ

秋（9～11月頃）の多奈川ビオトープ ②



↑ センニンソウ



↑ ボタンツル



↑ ミソソバ



↑ アレチヌスビトハギ (左:花・右:実)



↑ コセンダングサ



↑ クサギ



↑ クズ



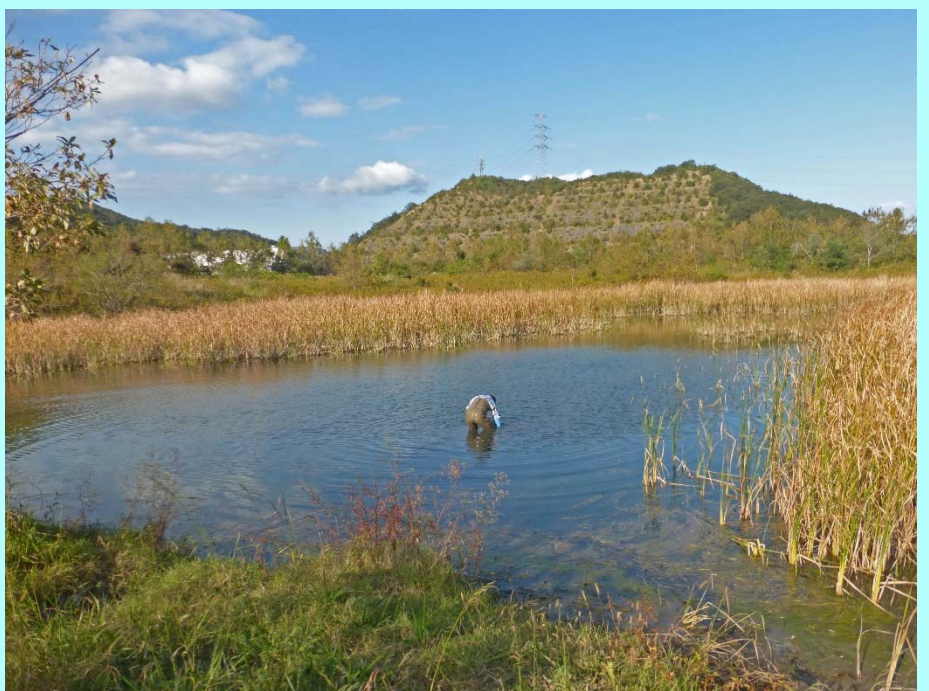
↑ イシミカワ



↑ メダカ



↑ モクズガニ



↑ 秋の「多奈川ビオトープ」

冬（12～2月頃）の多奈川ビオトープ ①



↑ ノウサギ（左：成獣・右：糞）

↑ ノスリ



↑ チョウゲンボウ

↑ モズ（♀）

↑ ジョウビタキ（♀）



↑ オオバン

↑ ヨシガモ（♂）

↑ ヨモギハムシ



↑ メダカ

↑ コオイムシ

↑ ミズカマキリ



↑ モリチャバネゴキブリ（幼虫）

↑ チャミノガ

↑ オオミノガ

冬（12～2月頃）の多奈川ビオトープ ②



↑ はやにえ（オンバッタ）



↑ はやにえ（ツチイナゴ）



↑ オオカマキリ（卵鞘）



↑ ハラヒロカマキリ（卵鞘）



↑ チョウセンカマキリ（卵鞘）



↑ セグロアシナガバチ（越冬）



↑ ガマの穂



↑ ノイバラ（実）



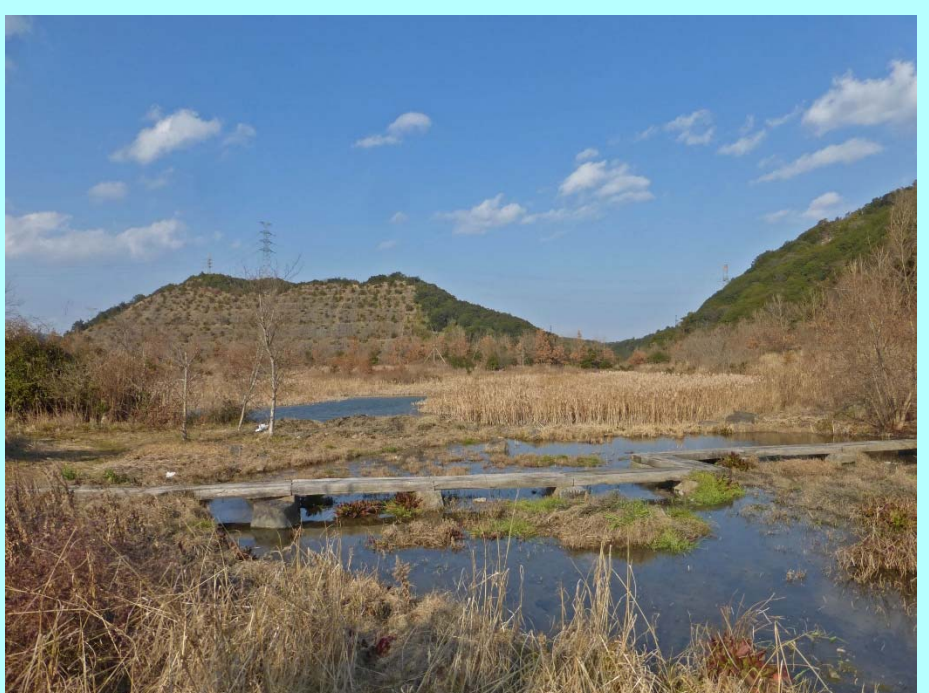
↑ オオイヌノフグリ



↑ ヤマアカガエル（卵塊）



↑ ウシガエル（オタマジャクシ）



↑ 冬の「多奈川ビオトープ」

多奈川ピオトープの チョウ

★季節により、飛んでいる種類が違ったり、同じ種類でも体色が違ったりします。



↑ モンキアゲハ



↑ ナミアゲハ



↑ ゴマダラチョウ



↑ ルリタテハ



↑ アカタテハ



↑ キタテハ



↑ コムラサキ



↑ アサマイチモンジ



↑ テングチョウ



↑ ウラギンシジミ



↑ アカシジミ



↑ ムラサキシジミ



↑ ミズイロオナガシジミ



↑ ベニシジミ



↑ ツバメシジミ

多奈川ビオトープのトンボ ①



↑ オニヤンマ



↑ ギンヤンマ (産卵)



↑ タイワンウチワヤンマ



↑ フタスジサナエ



↑ ショウジョウトンボ (♂)



↑ チョウトンボ



↑ ハラビロトンボ (♀)



↑ ハグロトンボ



↑ オオアオイトトンボ (産卵)



↑ アオイトトンボ (産卵)



↑ オツネトンボ



↑ ホソミオツネトンボ



↑ アオモンイトトンボ (交尾)





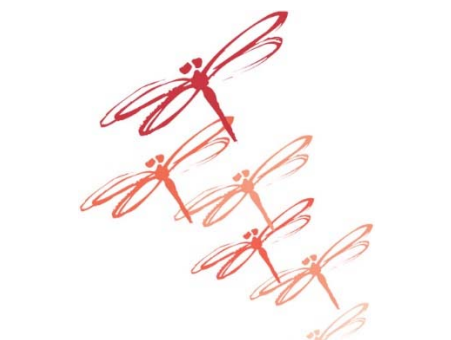






↑ クロイトトンボ



↑ ムスジイトトンボ

多奈川ビオトープのトンボ ② 【アカトンボ】

		
↑ アキアカネ (♂)	↑ リスアカネ (♂)	↑ マクタテアカネ (♂)
		
↑ ネキトンボ (♂)		↑ マイコアカネ (♂)
		
↑ コノシメトンボ (♂)	↑ タイリクアカネ (♂)	↑ キトンボ (♀)



キトンボ (♂) →



多奈川ビオトープのバッタ・コオロギの仲間

★バッタの仲間は、同じ種類でもその体色が「緑色」や「褐色」のものがあるようですね。



↑ マツムシ



↑ クビキリギス (褐色型)



↑ クルマバッタ (緑色型)



↑ トノサマバッタ



↑ キリギリス



↑ コバネイナゴ



↑ オンブバッタ



↑ クダマキモドキ



↑ ショウリョウバッタ (左：緑色型ペア・中：中間型♀・右：褐色型♀)

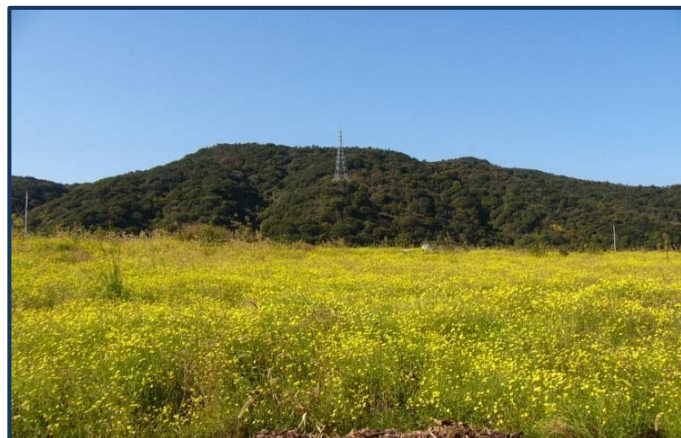
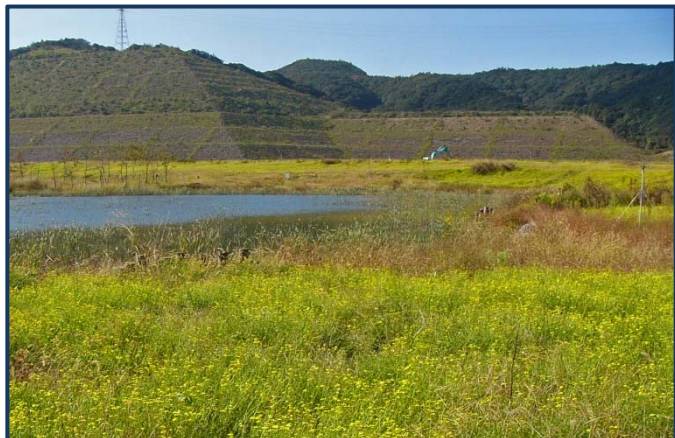


↑ ツチイナゴ (左：幼虫・右：成虫)

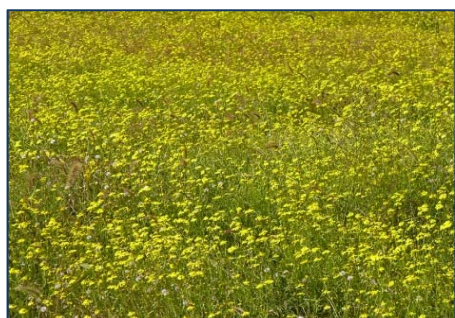
↑ オオカマキリ

多奈川ビオトープの 植生遷移

★10年くらい前までは「ナルトサワギク」（特定外来生物）が全域に広がっていましたが、次第に「セイタカアワダチソウ」や「ススキ」が入り込み、今では「セイタカアワダチソウ」と「ススキ」の2種が「競合」しています。（かつての勢いを失った「ナルトサワギク」は、年々衰退が著しいようです…）



↑ 2008年秋 ↑



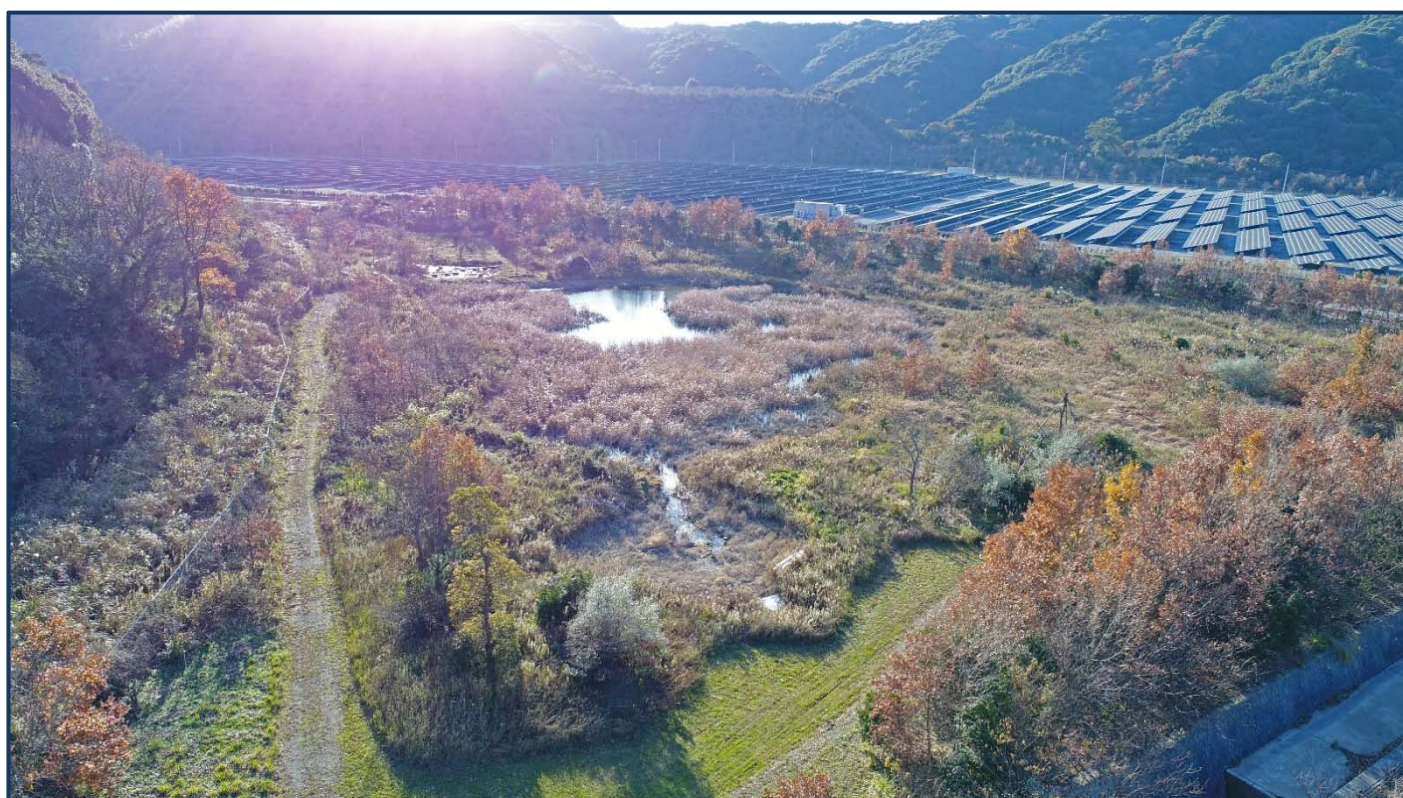
↑ 2008年 秋



↑ ナルトサワギク



↑ 2018年 秋



2017年秋（ドローンで撮影）

多奈川ビオトープの 食物連鎖 ①

★ここでは、いろいろな生きものたちが「食う 食われる」の関係でつながっています。



↑ 「アオモンイトトンボ」が「ムスジイトトンボ」を捕食



↑ 「クロイトトンボ」が「羽虫」を補食



↑ 「アオメアブ」が「虫」を補食



↑ 「シオヤアブ」が「コアオハナムグリ」を捕食



↑ 「シオカラトンボ (♀)」が、「ハナアブ」を補食



↑ 「ハラヒロカマキリ」が「ツクツクボウシ」を捕食



★今回紹介した生きものはみんな、生まれながらのハンター！
自力で獲物を捕獲しないと、生きてはいけません…



↑ 「オオカマキリ」が「バッタ」を捕食



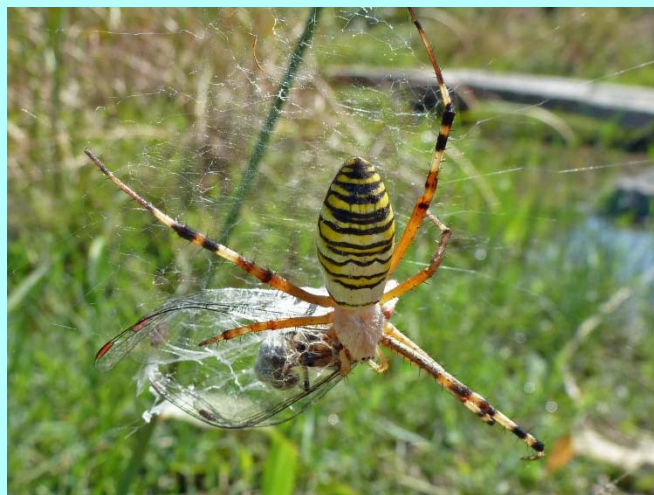
↑ 「カマキリ」の♀が、交尾中にみを食べる…(>_<)



↑ 「コガネグモ」が「コアオハナムグリ」を捕食



↑ 「ジョロウグモ」が「ミツバチ」を捕食



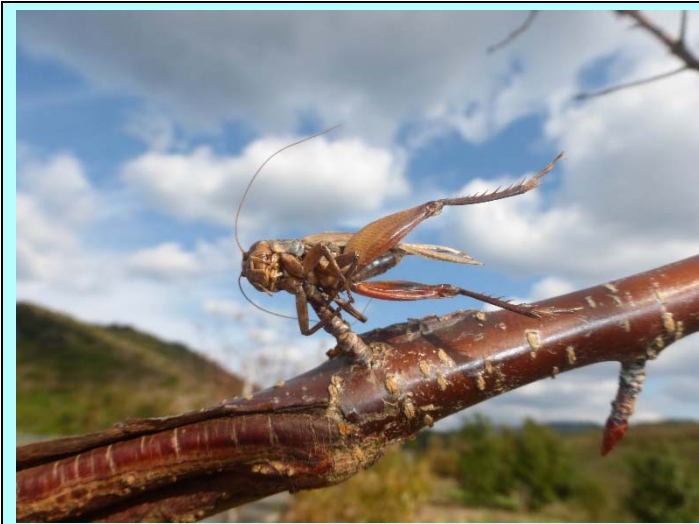
↑ 「ナガコガネグモ」が「アカトンボ」を捕食



↑ カニグモ科の「クモ」が「ガ」を捕食



★大阪の野鳥でもある「モズ」のはやにえを集めてみました。（晩秋の頃が見つけやすいですね！）



↑ エンマコオロギ



↑ トノサマバッタ



↑ オオスズメバチ



↑ ハラビロカマキリ



↑ トゲナナフシ



↑ トビズムカデ

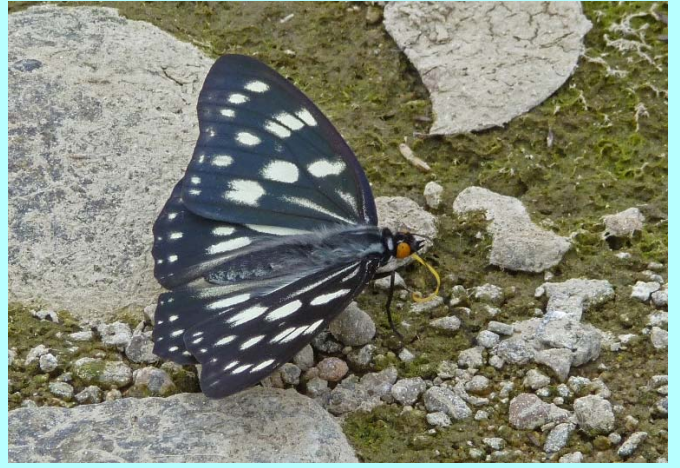


ゴマダラチョウの観察

- ★「多奈川ビオトープ」のエリア内には、何本かの「エノキ」の木が大きく育っています。
- ★「ゴマダラチョウ」は年3回くらい発生するのですが、秋にエノキの木で産まれた幼虫は、12月頃になると根元まで降りてきて、落ち葉の裏側に隠れて越冬します。



↑ クヌギの木で樹液をなめています



↑ 地面で水を飲んでいました。口吻は黄色い！



↑ エノキの葉に産卵



↑ 卵を拡大して見ると…



↑ エノキの落ち葉の裏で越冬中



↑ 春になると再びエノキの葉を食べます



虫たちの羽化 や脱皮

★「多奈川ビオトープ」の自然観察会では、羽化中や脱皮中の虫たちに出会うことがあります。

★それらの中から、「ナナホシテントウ」や「カメノコテントウ」、「ヤナギハムシ」の羽化の様子、「キリギリス」の脱皮の様子を紹介します。



↑ 「ナナホシテントウ」の羽化



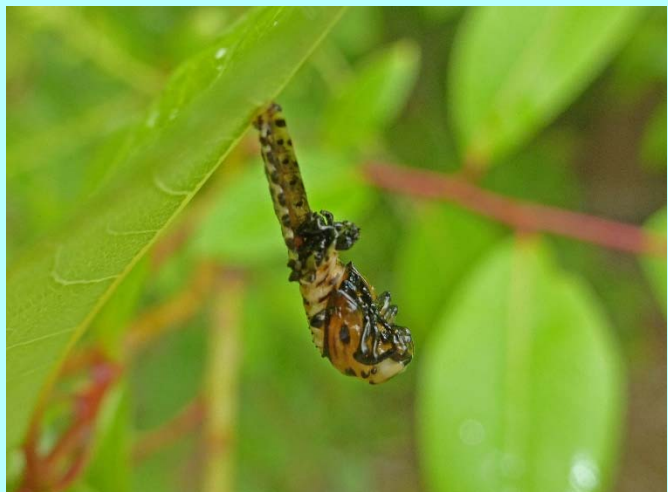
↑ 羽化したての「ナナホシテントウ」



↑ 羽化したての「カメノコテントウ」



↑ 「カメノコテントウ」の成虫



↑ 羽化中の「ヤナギハムシ」



↑ 脱皮中の「キリギリス」



野鳥たちの暮らしに触れる

★上空には「トビ」や「ノスリ」、「ミサゴ」、「チョウゲンボウ」などの猛禽類が旋回飛翔…。

★また、抱卵中の親鳥や可愛らしいヒナ鳥、幼鳥に出会うこともあります！



↑ 猛禽類（ノスリ）



↑ 猛禽類による捕食跡（トラツグミ）



↑ ウグイスの幼鳥



↑ ツバメの水浴び



↑ 抱卵中のキジ（♀）



↑ オオバンのヒナと卵



自然観察会 と 環境保全作業

★ボランティアにより、「自然観察会」の開催や環境保全活動が行われています。



↑ 自然観察（虫こぶを割ってみると…）



↑ 自然観察（ツバメの水浴びって…）



↑ 自然観察（湿地の中には…）



↑ 保全作業（湿地の水草取り）



↑ 保全作業（ヒメガマの刈り取り）



↑ 保全作業（草刈り）





多奈川ビオトープ



- 主催 : 多奈川ビオトープ企画・運営会議
調査 : 自然観察会に参加された「子どもたち」！
調査計画・指導 : 日本ビオトープ管理士会 近畿支部
図鑑製作 : 池口直樹（日本ビオトープ管理士会 近畿支部）
発行 : 2019年3月 【禁無断転載】

